広がる技術

サトウキビ品種「Ni23」および「Ni27」の普及

【はじめに】

サトウキビ「Ni23」は、発芽・萌芽が良く、茎伸長が優れ、春植え・夏植え・株出しともに多収な品種であり、平成20年に品種登録されました。一方、「Ni27」は、中太茎で茎の揃いが良く多収な品種であり、平成22年に品種登録されました。ここでは、これら２品種の普及状況について紹介します。

【普及状況の説明】

「Ni23」は、干ばつ年でも収量の低下が少ない耐干性の品種で、鹿児島県の奄美地域において着実に収穫面積が増加してきました（写真１、図１）。鹿児島県全体では、平成28／29年期の収穫面積割合21.8%（2181ha）を占め、奄美地域の各島での収穫面積の割合は、与論島61.3%、喜界島34.6%、徳之島34.4%、奄美大島23.9%、沖永良部島3.2%となっており、とりわけ与論島の割合が高いです。与論島は特に干ばつ被害が多発していた地域であり、「Ni23」の重要性が当初より注目されていました。与論島製糖(株)の光富広氏は、鹿児島県での「Ni23」の奨励品種決定試験において、早くから「Ni23」が耐干性に優れることに着目し、また、株出し栽培での成績の良さに気付き、奨励品種選定後は与論島での普及促進に貢献されました。このことが高く評価され、農林水産・食品産業技術振興協会の平成29年度民間部門農林水産研究開発功績者表彰を受賞されました。光氏の「Ni23」に関わるサトウキビ産業への多大な貢献に感謝しつつ、今回の受賞を関係者で祝福します。

次に、「Ni27」は、１茎重が大きく茎の揃いが良く、脱葉性に優れ、夏植え栽培と株出し栽培の両方の収量性の高さが評価され、宮古地域で急速に普及しました。平成28／29年期における「Ni27」の宮古地域での収穫面積割合は72.4%（3918ha）で、沖縄県全体での「Ni27」の割合は38.0%となっています（写真２、図２）。「Ni27」については、新しい展開として、平成28年7月28日に鹿児島県の奄美地域の奨励品種としても選定されました。現在は種苗増殖が進められており、鹿児島県の統計上の収穫面積が現れるのは平成30／31年期以降となります。鹿児島県農業開発総合センターでは「Ni27」の夏植え－株出し体系に関する研究成果を発信しており（鹿児島県農開総セ・平成28年度普及に移す研究成果）、今後の鹿児島県内の「Ni27」の普及が期待されています。

【最後に】

「Ni23」と「Ni27」は、いずれも多収性が認められて普及面積が拡大している品種です。現場では気象変動や栽培技術の機械化などの生産環境の変化に対応した株出し多収性品種へのニーズが高まっており、種子島研究拠点では、今後も多回株出し多収性品種の開発に取り組む予定です。

【種子島研究調整監　安達克樹】

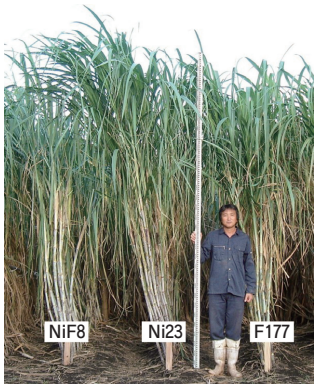

写真１
サトウキビ品種「Ni23」の立毛の様子
（左から、「NiF8」、「Ni23」、「F177」）

写真２
サトウキビ品種「Ni27」の立毛の様子
（左側：「Ni27」、右側：「NiF8」）

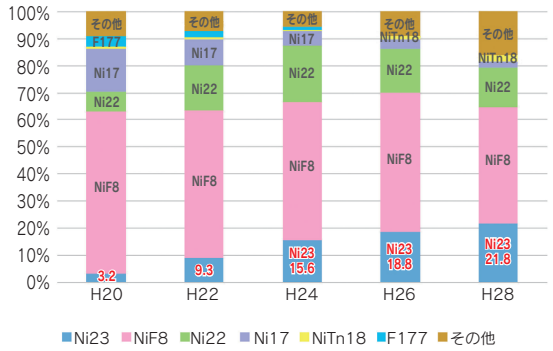

図１　鹿児島県における収穫面積に占める「Ni23」の割合（%）の推移（平成20／21年期～平成28／29年期）
※平成28年度さとうきび及び甘しゃ糖生産実績（鹿児島県農政部農産園芸課発行）より引用して作成した。

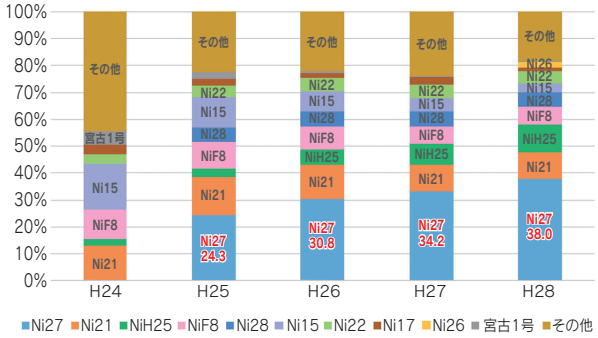

図２　沖縄県における収穫面積に占める「Ni27」の割合（%）の推移（平成24／25年期～平成28／29年期）
※さとうきび及び甘しゃ糖生産実績（平成24／25年期～平成28／29年期、沖縄県農林水産部発行）より引用して作成した。